

第38回日本皮膚外科学会総会・ 学術集会を終えて

(2023年7月22・23日)

*久留米シティプラザとWeb配信のハイブリッド開催

名 嘉 眞 武 國

久留米大学医学部皮膚科学教室主任教授

はじめに

2023年7月22・23日の2日間にわたり、第38回日本皮膚外科学会総会・学術集会を久留米シティプラザで開催しました。本大会に私が初めて参加したのは1996年(第11回)、沖縄で開催されたときでした(会頭:宮里 肇先生)。当時、各演題が「皮膚科がここまでやれるのか」という凄まじい発表ばかりで、腕を競い合う大会のようにも感じていました。そして時間を気にしない熱い質疑応答、服装は当時から自由なスタイルでの参加で、すっかり本大会の虜になってしまいました。近年、各皮膚悪性腫瘍に対して有効な薬物療法が注目される中、重症軟部組織感染症も含め皮膚外科療法はいまだ重要な位置づけであることには変わりなく、いつか本大会の会頭を務めたいと熱望するようになりました。そして今回、念願が叶ったわけです。

企画と講演

開催時期にはすでにCOVID-19が感染症分類改定により5類に下げられていましたが、感染患者数は全国各地で減少傾向ではなかったため、ご参加が少ないのではないかと危惧していました。しかし開会式(写真1)の時点では会場入りされている方は少なかったのですが、次第に増えて約300名前後が参加されました。

本大会のテーマは事務局長の武藤一考先生と補佐の嘉多山絵理先生のアイデアで「臨機応変 現場で下す判断・思考法」としました。一般演題も含め興味深い発表が目白押しで、想定通り熱い質疑応答が行われました。

次に講演ですが、目玉としてこれまで本大会に尽力され、このたび理事を退任される4名の先生方に「皮膚外科の先覚者に聞く」というテーマで登壇いただく特別講演を企画しました(写真2)。順に大原國章先生(前理事長/赤坂虎の門クリニック院長)、清原祥夫先生(静岡県立静岡がんセンター)、伊藤孝明先生(兵庫医科大学)、中川浩一先生(大阪府済生会富田林病院)です。お名前を聞いただけでも偉大な先生方ばかりです。全員これまでの本大会の歴史をはじめ、ご自分が皮膚外科領域になぜ関わってきたか、そしてその重要性についてときに笑いも交えて語っておられ、将来に向けてたいへん貴重なお話が聞けました。拝聴した先生方の心に響くメッセージであったのは明確で、思いが受け継がれ、今後会



写真1 開会式での会長挨拶時の会場

員が増え盛り上がっていくことが期待できる内容でした。

海外招聘講演はYonsei(韓国・ソウル)大学のKee-Yang Chung 先生にご依頼しました。先生は皮膚外科領域ではたいへんご高名な先生で、実際の症例を供覧され、その再建の技術と完成度は私がみたことも経験したこともない、というよりとても真似できないものばかりで、非常に驚かされたのは私だけではなかったはずです。

スポンサードセミナーでは皮膚外科医こそ関わる機会の多い「メラノーマ治療の最前線」について内 博史先生(九州がんセンター)と前川武雄先生(埼玉医療センター)に、前川先生にはさらに別のセミナーで「化膿性汗腺炎の集学的治療」について解説いただきました。また将来発癌性が危惧される表皮水疱症に関して「再生誘導医学とその臨床応用」のテーマで玉井克人先生(大阪大学)に解説いただき、いつもながら実現化に向けた素晴らしいお話が聞けました。また今福信一先生(福岡大学)からは乾癬の病態と現在注目されているTyk2阻害薬の意義についてのお話があり、皮膚外科に関わる先生方にとって興味深い内容を拝聴できたと思います。

サージェリーエンジョイタイム

私は「おもてなし」を大切にしています(笑)。そこで昨年会頭として開催した西部支部学術大会での“ハッピーランチタイム”が大好評であったこともあり、本大会でもスケールを小さくしてお昼に“サージェリーエンジョイタイム”と称した催しを

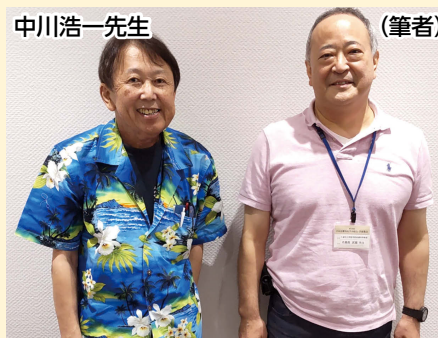


写真2 先覚者4名の先生方



写真3 サージェリーエンジョイタイム

開催しました(写真3)。もちろんアルコールも準備しましたが予想通り見事に飲み干され、その勢いでしょうか、初日終了後は参加者の方々がグループに分かれて思い思いに焼き鳥屋や居酒屋などで久留米の夜を満喫されたようです。もちろん会頭である私も。

おわりに

今回、念願の本大会を会頭として開催できたこ

とに安堵するとともに、盛会で終えることができた
たと自己満足しております。それはやはり参加し
ていただいた先生方のおかげであり、閉会式まで
多くの先生方が参加されていたことにもたいへん
感謝しております(写真4)。また本大会の開催に

もっとも尽力していただいた事務局長の武藤先生
と運営事務局を務めた株式会社ジーニス コンベン
ションサービスの皆様に、心より御礼申し上げま
す。来年以降も本大会が盛り上がるよう、微力です
が私も協力していく所存です。



写真4 学会閉会后、会場入り口での集合写真
全員自由なスタイルでの参加（大原先生は久留米緋を着用）